

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部図書室および学生控え室を、学生会の要望も入れながら整備する。	→学部図書室および学生控え室の整備。	C	B	B	B	/
2. ティーチング・アシスタント (TA)、ラーニング・アシスタント (LA) の任用による教育研究支援体制を整備する。	→教養科目あるいは専門科目におけるTAならびにLAの任用者数(2013年度までに1名以上)。	C	B	B	B	/
3. 研究時間確保のために教養教育科目における専任教員の適切な配置を図る。	→教養教育科目における専任教員担当科目の検証と専兼比率。	C	B	B	B	/
4. 学院留学および特別研究期間の採用において、公平性を保ちつつ、効率的かつ戦略的方法を構築する。	→学院留学および特別研究期間採用者における選考基準の部内明確化(2013年度までに)。	D	D	D	C	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	PC・学部所蔵図書・雑誌の管理(教室管理を含む)、チャペル(礼拝)運営など教育的補助業務を行うことを意図して、教務補佐(常勤)4名および教学補佐(大学院生)5名を置いている。なお、学習環境の整備について、学部においては自治組織である「学生会」が、学生控え室の運営など設備に係る学生のニーズを集約し、副学部長(学生担当)を窓口にして学部と調整を行っている。設備について2012年度は目立った整備は行っていない(学生控え室の空調機器について取り替え工事のみ)。
目標2	初年次教育「基礎演習」(1・2年次)にラーニング・アシスタント(LA)として3年次3～4名を継続的に採用しているが(2011年度以降)、採用に際しては集中講義「論述・提案技能演習」の単位修得および全学的に実施される事前研修への参加を義務付けている。また、2012年度から1年次の秋学期(1年次「基礎演習」と引き続いて2年次の春学期(学年進行により2年次「基礎演習」)の1年間、学生が同じLAから継続的、かつ段階を踏まえた支援を受けられるように制度を整備した。2013年度も1年生が、秋学期からの1年間、新たに採用のLAから教育支援を受ける予定であるが、施策の進行と同時に制度自体の検証の仕組みについても検討を行っていく。TAの体制はまだ整っていない。
目標3	2013年度の教養教育科目における専兼比率は昨年度と同様に36.8%である(大学データ、表5)。一方で専門教育の専兼比率は83.2%であり、専任教員が適切に専門領域における教育を担っていると理解している。
目標4	学院留学および特別研究期間の採用においては、従来の基準(就任年度および過去の採用実績を考慮)を踏襲しており、本目標の意図する制度は整備できていない。しかしながら、結果的として一部、学部施策に立脚した採用もみられるようになってきている(2011年度:海外協定校との交流について新しい展開を模索。2013年度:学部から大学院までの一貫した伝道者教育を見据え、高度職業人養成のためのプログラムを検討)。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	5	5	5	5	5	
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	4	4	4	4	4	
		授業補佐	人	0	0	0	1	3	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	14.3	16.2	14.0	15.2	15.8	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	15.4	15.9	16.4	12.3	9.8	
		講師	時間	—	15.5	13.5	—	—	
		助教	時間	12.6	15.3	—	14.0	10.0	